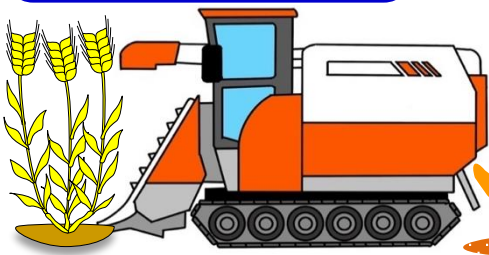




田植えを無事終えたのもつかの間、麦の収穫時期を迎え、大豆播種の準備に取り掛かります。大豆は、初期生育でつまづくと高収量が見込めません。高収量を目指すには今まで以上に排水対策や病害虫対策が必要です。大麦刈取後すぐに排水対策・土改材散布及び播種の準備をしましょう。まずは、苗立率を上げて初期生育を良くすることで収量増大に結び付けましょう。

1. 圃場準備と播種作業



- 大豆播種の準備は大麦の刈取りから！
麦わらをすき込みやすくするために、刈取時は高刈りせず、麦わらは細かく切断しましょう。
- 大麦の排水溝は必ず残し、上手に活用を！
早期に既存排水溝の再整備（手直し）
排水不良時は排水溝の追加施工
- アルカリ資材を散布してPH調整を行い生育向上！
大豆の好適PH: 6.0～6.5

2. 排水対策のポイント

- 想定外の降雨に耐える、圃場づくり。
既存排水溝の掘り直しや手直しで、初期生育時の冠水を防止する。

3. 種子消毒のポイント

- クルーザーMAXXによる種子消毒は、発芽直後から発生する病害虫を防ぐことができます。

【効果】

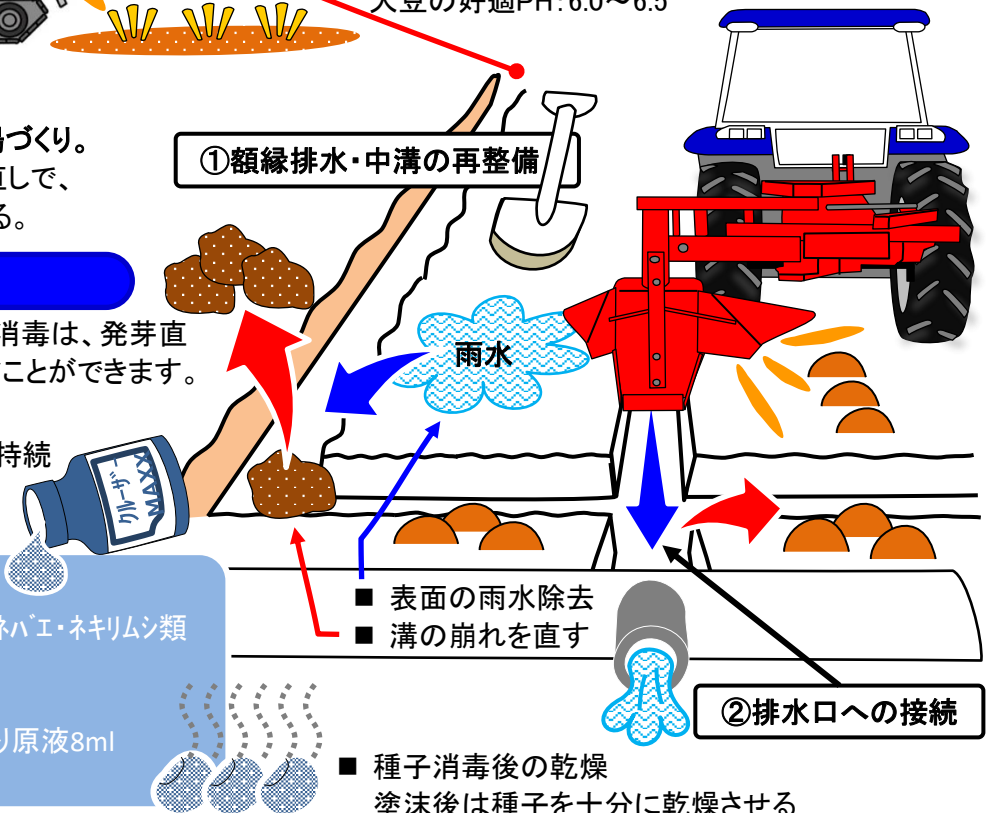
- ① 殺菌・殺虫効果が約1ヶ月持続
- ② 根部を病原菌から守る
- ③ 苗立率や初期生育を改善

【対象病害虫】

- フタシ・ヒメハムシ・アブラムシ類・タネバエ・ネキリムシ類
- 紫斑病・茎疫病・苗立枯病

【使用方法】

- 塗沫処理：乾燥種子1kg当り原液8ml
- 使用回数 1回



4. 播種のポイント

- 適期播種および適正な播種量を設定する。（収量・品質の向上、裂皮粒の抑制）
- 耕耘・碎土作業は、その日のうちに播種作業が可能な面積にする。（耕耘・碎土～播種作業は一日工程で）
- 播種作業は、ゆっくり丁寧に行う。

◎ 目標の苗立数

里のほほえみ	16本/m ² (条間75cmで12本/m)
エンレイ	17本/m ² (条間75cmで13本/m)

『ゆっくり播種で碎土率を上げると・・・』

- 発芽・苗立ちが良くなる
- 根量が増え根粒菌が増える
- 除草剤の効果が十分に得られる
- 培土がしやすくなる

